



# 連合駿台会報

No.346 令和元年7月15日発行  
 発行・編集 連合駿台会  
 発行人 広報委員長・齋藤柳光  
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子  
 〒101-0052千代田区神田小川町三十二  
 明治大学「紫紺館」内  
 電話 (〇三) 三二九六一四七七  
 印刷 有限会社 美創

## 第六十五回連合駿台会総会を開催

第六十五回連合駿台会の通常総会が、令和元年五月十七日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

開会に先立ち、先年度亡くなられた方々(新井久晴氏、庵原宏章氏、横村武宣氏)および、先月逝去された野口昌宏氏に黙祷が捧げられた後、田村駿会長は開会を宣言し、規約の第五章・第13条に従い、会長が議長となり、議案の審議が進行されました。なお、第一号議案・第二号議案は関連性の高いものなので、両議案の説明後に一括して質問を受けた後、決議に入りたいとの提案が議長からあり、異議なく承認され、審議に入りました。

### ○第一号議案

平成三十年度事業報告書、収支計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成三十年度の事業報告(①例会(創立六

十五周年記念例会を含む)・総会：六回、②理事会：四回、③その他(正副会長会：一回、ビジネス勉強会：一回、ビジネス勉強会&グルメ交流会：一回、オープンゴルフコン

ペ：二回、新入会員歓迎会：一回、「名瀑鑑賞と足利の史跡を訪ねる」バスツアー：一回、ラグビー明慶戦観戦と懇親会：一回、運営委員会：六回、大学支援のあり方検討委員会：二回、各委員会)、④会報発行：六回、⑤会員状況)について、当山明彦専務理事から報告があった。会員数については、新入会員は二十九名、退会会員が昨年並みの十八名にとどまったため、年度末の会員数は十一名増加して、三百六十二名となった。

▽平成三十年度の収支計算書・貸借対照表・財産目録については、小山修財務委員長より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、当期収入総額(前期繰越取崩額2000万円+六十五周年特別収入を含む)は2223万7628円(予算額2166万円・

対予算比一〇二・七%)。内訳では年会費収入が1511万4500円(予算額1500万円・対予算比一〇〇・八%)、例会費収入が431万円(予算額395万円・対予算比一〇九・一%)、広告費収入81万円(予算額70万円・対予算比一一五・七%)と、すべて予算額を上回った。

・「支出の部」では、総務費関係は621万7159円(予算額537万円・対予算比一一五・八%)となっており、事務通信費(対予算比プラス一八・六%)、備品消耗品費(対予算比プラス五三・八%)、印刷費(対予算比プラス三九・二%)、雑費(対予算比プラス二五・一%)といずれも予算よりオーバーしている。事業費の各委員会運営費では、一番大きな予算を組む総務・事業委員会費(六十五周年特別収入を含む)が970万8624円(予算額985万円・対予算比・九八・六%)で予算内に収まったほか、すべての委員会が予算未達で、五委員会の総額では1543万8865円で、予算額1575万円に対する対予算比は九八・〇%、31万円ほどの黒字だった。その他慶弔費も合わせ、当期支出合計は2173万6024円となり、当期収支差額も50万1604円との黒字となった。これを受けて次期繰越収支差額は3955万8977円となった。

・「貸借対照表」では、借方「資産の部」が小口現金・みずほ銀行普通預金・ゆうちょ銀行普通預金・みずほ銀行定期預金・MMF・電話加入権の合計額5817万4177円で貸方「負債・正味財産の部」の額と一致している。年度末の正味財産は5755万8977円となった。

▽監査報告（二宮充子監事）

これらについて、規約第六章・第18条の規定に基づき、令和元年五月十五日付けで二宮充子監事・坂田英夫監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行為されており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

○第二号議案

各委員会平成三十年度事業報告および令和元年度事業計画（案）・活動予算（案）、並びに収支予算（案）承認の件

\* 承認の件

▽総務・事業委員会 鈴木隆志委員長

〈平成三十年度事業報告〉

- ① 例会六回（含む総会・駿台懇話会）、理事会五回、正・副会長会一回、運営委員会六回を開催。特に九月は「六十五周年記念例会」として多数の来賓をお

迎えし、祝賀会をホテルグランドパレスで開催した。

- ② 新規会員の定着・懇親のための事業（ピジネス勉強会&グルメ交流会、新入会員歓迎会）を開催した。

- ③ 会員相互の親睦会（バス旅行、ラグビー観戦、ゴルフコンペ二回）を開催した。

〈令和元年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 令和元年度年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。

- ② 例会出席者向上のために魅力ある楽しい例会の企画を検討する。

- ③ 新規会員の定着・懇親のための事業（ピジネス勉強会&グルメ交流会、新入会員歓迎会）を引き続き開催する。

- ④ 会員相互の親睦会（バス旅行等、スポーツ観戦、ゴルフコンペ）を開催する。

- ⑤ 会員の結束の意味も含め、会員バッジを制作し、配布する。

【活動予算】 930万円（会員バッジ制作特別費用）250万円を含む

▽組織・会員増強委員会 高澤徹委員長

〈平成三十年度事業報告〉

- ① 委員会の開催  
六回開催し入会審査の実施と、理事会上程および持ち回り理事会（二回）等、速やかな承認手続きの遂行をした。

- ② 会員増強活動の推進  
入会者：目標三十名

〈実質〉新規入会者（二十九名）、入会承認者（十二名） 計四十一名

※入会承認者十二名の内訳（入会金未着者：五名、三月入会承認者：七名）

〈内訳〉新社長・役員リスト 二十三名  
会員ご紹介 十八名

- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施  
会員ご紹介による入会希望者の同伴費用は例会四名、六十五周年記念例会五名、計九名となり、入会促進につながった。

総務・事業委員会と連携して、二月に新入会員歓迎会を開催した。

〈令和元年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 委員会の開催

年六回を目安に入会審査の実施と速やかな承認の手続きの遂行を行う。

- ② 会員増強活動の推進  
新社長・役員リスト・大学との懇談会参加者等による活動と会員ご紹介を推進する。会員ご紹介による入会希望者の例会同伴費用を無料とする。

会員の例会出席率の向上策の検討と実施を図る

- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施

【活動予算】 20万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈平成三十年度事業報告〉

- ① 会報（第三三九号～三四四号）を定期刊行して、会員相互の情報を共有して会の運営の円滑化を図り、広報委員持ち回りで編集後記を積極的に出稿した。
- ② ホームページ（HP）を全面的にリニューアルして、スマホ対応などの機能を強化して、インフォメーションの内容並びに会の活動レポートを最大限アップした。

予定告知ももれなく入れて、さらに寄稿ページを会員に活用いただき、反響も大だった。

③ 年賀名刺広告は「会報への資金援助」の理解のもと、昨年を上回る協力を得た。

〈令和元年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 全面的にリニューアルしたHPの活用を一層強力に推し進め、情報のスピードアップを図り、一層の会員の寄稿などの協力を得て、大学や関係機関団体などとリンクして、会の広報活動を積極的にアピールする。学外の一般広報媒体を通して、機会あるごとに母校のステークホルダーとしての連合駿台会の存在感をPRしていく。
- ② 現時点で百六十九人に許諾いただいた携帯電話番号を使うSMSの周知を、新

年度から実用化する。当面は例会等のリマインド連絡などで発信作業をしていく。

- ③ 明治大学広報を通して会に諮問されている母校支援活動の一環として、大学支援広告費を提供する（70万円の予算を計上）。連合駿台会コーナーを常設して、会の存在価値と活動意義を知らしめる。
- ④ 上記②③の新規活動費捻出のため、年賀名刺広告収入100万円達成を目指す。
- 【活動予算】 300万円

▽大学支援委員会 浅井宏委員長

〈平成三十年度事業報告〉

- ① 学術賞・学術奨励賞を一月十六日の駿台懇話会にて授与。学術賞一名、奨励賞一名、学術賞・鍾家新教授が代表して記念講演を行った。なお学術奨励賞一名の辞退者が出た。

② 連合駿台会寄付講座をグローバルフロント・ホールにて、春期・秋期の講座を実施。

- ・春期（六月十四日）榎本知佐氏（株）日立製作所 エグゼクティブ・コミュニケーション・ストラテジスト
- ・秋期（十一月九日）桑島壮一郎氏（GINZA SIXリテールマネージメント株）代表取締役社長

③ フューチャースキル（FS）養成講座（商学部・経営学部）を会員企業8社の協力で実施。FS講座の延長線として

- ④ 新企画「学生対抗プレゼン大会」を、まず商学部と連携して実施。
- ⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シエイクスピアプロジェクトに例年通り協賛。
- ④ 新たな企画として就職キャリア支援事務室と連携し、新入留学生向け「日本企業への就職活動支援」のための説明会を、会員企業の協力をいただき開催。年度内に追加開催を検討中。

⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シエイクスピアプロジェクトに例年通り協賛。

〈令和元年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 学術賞・学術奨励賞は前年度辞退者が出たことを踏まえ、改善案を加味し実施予定。

② 連合駿台会寄付講座は、例年通り春期・秋期の二回を予定。

- ・春期（七月二日）鷹野正明氏（株）るなび顧問／前株三越伊勢丹常務執行役
- ・秋期（十一月二十九日）江崎徹氏（株）はせがわ 代表取締役社長

- ③ フューチャースキル講座は、商学部・経営学部については、総会終了後に決定

営学部からの増設要請に合わせ2講座を追加し、10講座を協賛10企業(新規2企業追加)の協力を得て開講。

大学支援のあり方検討委員会の答申に基づき前年度開始した「学生対抗プレゼン大会」を、商学部として強化拡大し、さらに経営学部を加え発展させる企画があり対応して行く予定。

④ 新入留学生向け「日本企業への就職支援」活動をさらに充実強化させる。

⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクトの協賛(前年度実績通り)。  
【活動予算】 380万円

▽財務委員会 小山修委員長

〈平成三十年度事業報告〉

① 当年度中の新規入会者数は目標の三十名(二十名)に対し二十九名(三十六名)、退会者は十八名(十六名)でとどまり、十一名(二十名)の純増となった。

② 会費未納者数は、三百六十二名中二十九名(三百五十一名中二十名)で、会費未納率は八・〇%となり、平成二十九年年度末の五・六%と比較すると二・四ポイント上がった。ただしこれは新入会員の入会手続きが、今年度へずれ込んだことに起因すると思われる。

ちなみに平成二十八年度末は七・〇%、同二十七年末は七・四%。

③ 年会費収入は、当初予算の1500万円(1445万円)に対して1511万4500円(1530万1028円)で、約12万円(約85万円)の増収、対予算比は一〇〇・八%(一〇五・九%)。  
※( )内の数字は、平成二十九年年度のもの

④ 〈平成三十一年三月三十一日現在〉  
☆会費納入見込み会員数：三百六十二名  
一般：三百三名 地方：五十九名  
☆会費納入者数：三百三十二名(会費を納入して退会した人を含む)  
一般：二百七十七名 地方：五十五名

〈令和元年度事業計画・活動予算(案)〉

① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底を図り、財産基盤が損なわれないうよう、収支差額予算を達成する。

② 当会資産の運用、活用方法について協議し、使途などを提案する。

【活動予算】 10万円

【令和元年度収支予算(案)】

① 収入の部では、年会費収入は昨年度の納入実績に合わせ、新入会員入会金分も三十名とし、1550万円とした。例

会費収入は五回を百十名、一回を九十名出席と見込んで、320万円とした。

さらに特別収入として、会員バッジ制作特別費用として250万円を計上しており、「前期繰越取崩額」とした。広告費収入と雑収入は、ともに昨年の実績に基づき想定し、当期収入計は2201万円。前期繰越収支差額をプラスし、前期繰越取崩額をマイナスした結果、当期収入合計は5906万8977円となった。

② 支出の部では、総務費は昨年並みの540万円、事業費は先ほど各委員長から計上された額の合計1640万円に、従来通りの慶弔費10万円と予備費10万円を加えて当期支出の合計は2200万円、当期収支差額は1万円となった。

第一号議案・第二号議案については、満場一致で可決・承認された。

第三号議案

その他

当山明彦専務理事から、以下二点の説明があった。

・令和元年度の連合駿台会活動基本方針に関しては、昨年度と同様の方針を踏襲して進めていく。

## 平成30年度 連合駿台会 収支計算書

自:平成30年4月1日

至:平成31年3月31日

(単位:円)

収入の部				実績摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	実績	予算比	
年会費収入	15,000,000	15,114,500	100.8%	(一般)277名、(地方)55名(新入会員入金)29名×@30,000=870,000円
例会費収入	3,950,000	4,310,000	109.1%	*例会…5回(予算100名×4回⇒平均110名×@5,000円)+(予算90名⇒81名×@5,000円)=2,610,000円 *65周年(予算1,500,000円⇒1,700,000円)
65周年特別収入	2,000,000	2,000,000	100.0%	前期繰越取崩
広告費収入	700,000	810,000	115.7%	名刺広告代(@10,000円×63件+@30,000円×6件)
雑収入	10,000	3,128	31.3%	みずほ普通預金・みずほ定期預金・ゆうちょ銀行利息
当期収入計	21,660,000	22,237,628	102.7%	
前期繰越収支差額	39,057,373	39,057,373	100.0%	
<b>当期収入合計</b>	<b>60,717,373</b>	<b>61,295,001</b>	<b>101.0%</b>	
支出の部				実績摘要(支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
<b>I. 総務費</b>				
(1) 家賃共益費	620,000	618,000	99.7%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	2,239,000	101.8%	事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務通信費	1,000,000	1,185,606	118.6%	電話代(約160,000円)/例会資料等発送費(約740,000円)/振込手数料ほか(280,000円)
(4) 備品消耗品	500,000	769,184	153.8%	文具代ほか(約320,000円)/発送用封筒・会員ネーム札作成代ほか(約340,000円)/名刺代(約110,000円)
(5) 印刷費	650,000	905,009	139.2%	事務局コピー機リース代(約192,000円)/コピー用紙代ほか(約713,000円)
(6) 雑費	400,000	500,360	125.1%	事務局交通費等
<b>総務費計(I)</b>	<b>5,370,000</b>	<b>6,217,159</b>	<b>115.8%</b>	
<b>II. 事業費</b>				
<b>1.各委員会運営費</b>				
(1) 総務・事業委員会費	9,850,000	9,708,624	98.6%	例会費講師謝礼等(約3,200,000円)/65周年記念例会費(約4,670,000円)/運営委員会・正副会長会費等(約940,000円)/各種事業費・委員会費・雑経費等(約1,200,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	200,000	171,750	85.9%	委員会費(101,750円)/例会費補助(70,000円)
(3) 広報委員会費	2,200,000	2,156,980	98.0%	会報発行費(1,730,000円)/HP運営業務委託費(約350,000円)/委員会費(約77,000円)
(4) 大学支援委員会費	3,400,000	2,750,711	98.6%	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(約1,050,000円)/寄付講座経費(約780,000円)/商学部学生支援プレゼン協賛金(300,000円)/大学行事協賛金(500,000円)/委員会費(約120,000円) ※左記600,000円はH29年度分経費未払分(平成30年7月26日支払い)
(5) 財務委員会費	100,000	50,800	50.8%	
<b>各委員会運営費計</b>	<b>15,750,000</b>	<b>15,438,865</b>	<b>98.0%</b>	
<b>2.その他事業費</b>				
(1) 慶弔費	100,000	80,000	80.0%	
<b>その他事業費計</b>	<b>100,000</b>	<b>80,000</b>	<b>80.0%</b>	
<b>事業費計(II)</b>	<b>15,850,000</b>	<b>15,518,865</b>	<b>97.9%</b>	
<b>III. 予備費</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>		
<b>事業費計(III)</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>		
<b>当期支出合計(I+II+III)</b>	<b>21,320,000</b>	<b>21,736,024</b>	<b>102.0%</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>340,000</b>	<b>501,604</b>		
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>39,397,373</b>	<b>39,558,977</b>	<b>100.4%</b>	

## 平成30年度 連合駿台会 貸借対照表

自:平成30年4月1日

至:平成31年3月31日

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
<b>(流動資産)</b>	<b>58,163,877</b>	<b>(流動負債)</b>	<b>615,200</b>
小口現金	456,590	源泉預り金	15,200
みずほ銀行・普通預金	1,647,748	未払金	600,000
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,669	<b>(正味財産)</b>	<b>57,558,977</b>
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1. 有志寄付金	18,000,000
M. M. F.	12,463,870	2. 次期繰越収支差額	39,558,977
<b>(固定資産)</b>	<b>10,300</b>	(うち 当期正味財産増加額)	(501,604)
電話加入権	10,300		
<b>資産合計</b>	<b>58,174,177</b>	<b>負債・正味財産合計</b>	<b>58,174,177</b>

## 平成30年度 連合駿台会 財産目録

自:平成30年4月1日

至:平成31年3月31日

(単位:円)

科目	金額	
1. 資産の部		
(1) 流動資産		
小口現金	456,590	
みずほ銀行・普通預金	1,647,748	
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,669	
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	
M. M. F.	12,463,870	
流動資産合計		58,163,877
(2) 固定資産		
電話加入権	10,300	
固定資産合計		10,300
<b>資産合計</b>		<b>58,174,177</b>
2. 負債の部		
(1) 負債の部		
源泉預り金	15,200	
未払金	600,000	
流動負債合計		615,200
<b>負債合計</b>		<b>615,200</b>
<b>正味財産</b>		<b>57,558,977</b>

## 令和元年度 連合駿台会 収支予算

自: 2019年4月1日

至: 2020年3月31日

(単位: 円)

収入の部		摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	
年会費収入	15,500,000	* (一般) 280名 × @50,000円 = 140,000,000円、(地方) 60名 × @10,000 = 600,000円 (新入会員入会金) 30名 × @30,000 = 900,000
例会費収入	3,200,000	* (夜例会) 5回 … (110名 × 5回 × @5,000) + (90名 × 1回 × @5,000) = 3,200,000円
会員バッジ制作特別費用	2,500,000	* 前期繰越取崩
広告費収入	800,000	
雑収入	10,000	* 預金利息
当期収入計	22,010,000	
前期繰越収支差額	39,558,977	
前期繰越取崩額	△2,500,000	
<b>当期収入合計</b>	<b>59,068,977</b>	
支出の部		摘要(支出の部)
勘定科目	金額	
<b>I. 総務費</b>		
(1) 家賃共益費	650,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	* 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務・通信費	1,000,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料ほか
(4) 備品消耗品	500,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代ほか
(5) 印刷費	650,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代ほか
(6) 雑費	400,000	* 事務局交通費/資料代ほか
<b>総務費計(I)</b>	<b>5,400,000</b>	
<b>II. 事業費</b>		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務事業委員会費	6,800,000	例会費・講師等謝礼(5,000,000円)/正・副会長費、運営委員会費(600,000円)/名簿発行費(400,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費(100,000円)
	2,500,000	会員バッジ制作費
(2) 組織会員・増強委員会費	200,000	新入会員定着活動費(100,000円)/会員増強活動費(100,000円)
(3) 広報委員会費	3,000,000	会報発行費(1,740,000円)/HPの更新・管理・維持費(360,000円)/SMS関連費(100,000円)/明大広報へコラムコーナー設定のための支援金(700,000円)/委員会費(100,000円)
(4) 大学支援委員会費	3,800,000	学術賞(1名)・奨励賞(2名)賞金・副賞(1,500,000円)/寄付講座(2回)およびその他経費(750,000円)/「学生対抗プレゼン大会」(仮称)副賞ほか費用(700,000円)/「留学生就職支援」関連費(300,000円)/大学行事協賛金(500,000円)/委員会費(50,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	16,400,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
<b>事業費計(II)</b>	<b>16,500,000</b>	
<b>III. 予備費</b>		
<b>事業費計(III)</b>	<b>100,000</b>	
<b>当期支出合計(I+II+III)</b>	<b>22,000,000</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>10,000</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>37,068,977</b>	

## 令和元年度 連合駿台会 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、オール明治の団結と絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

1

### 【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交歓し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動等社会貢献の実施、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

2

### 【大学の発展への寄与と連携強化】

大学の教育と学術研究の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施する。また大学がすすめる知的資産の運用やビジネスインターンシップ制度、グローバル化推進に連携して取り組む。さらに、新しい視点での大学支援を検討し、適宜大学への提言を行う。

3

### 【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実ともに存在感のある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

4

### 【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘にも力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

## 令和元年度 例会日程予定表

年	月日・曜日	開始時間	会場	講師・出演者等(予定)	備考
令和元 (2019)	7月17日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	薬師寺副執事長 大谷 徹 氏	※薬師寺元管長高田 好胤殿下の御弟子
	9月18日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	重要無形文化財 都一中 氏(12代目)	
	11月20日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	ミュージシャン・作曲家 宇崎 竜童 氏	忘年会
令和2 (2020)	1月22日(水)	17:30	明治大学 「アカデミーコモン」	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月18日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	元ミスノ代表取締役会長 水野 正人 氏	※東京オリンピック招 致の立役者
	5月15日(金)	18:00	明治大学 「紫紺館」	講演なし	総会

※総務・事業委員会では、「ビジネス勉強会&グルメ交流会」(年2回を予定)、ゴルフコンペ(年2回・春と秋)、バス旅行、スポーツ観戦等のほか、新入会員歓迎会(2月頃)の開催を計画。

・令和元年度の例会日程等については、8ページの予定表を参考していただきたい。

\*

連合駿台会記念バッジを制作いただいた山田朝彦常任理事から、バッジ制作にあたっての意図などの説明があった。

以上

上記議事録は、適切に記録されているものと認める。

議事録署名人 畠中 君代  
議事録署名人 小山 修

◆新入会員紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



中澤 良平  
昭和六十一年・経営学部卒  
スター・インデスティ・アンド・ライアリティカバナー CEO (最高経営責任者)  
東京都調布市在住



山村 明好  
昭和四十六年・工学部卒  
アジアナ航空  
副社長&CSO  
神奈川県横浜市在住



福山 浩司  
平成元年・経営学部卒  
ベル食品(株)・代表取締役社長  
北海道札幌市在住



渡邊 能宏  
平成十七年・政経学部卒  
ワタヒヨウ(株)  
代表取締役  
宮城県仙台市在住



林 隆博  
平成三年・経営学部卒  
野村證券(株)・執行役員 営業部門  
事業法人兼金融公共公益法人担当  
埼玉県和光市在住



梅野 修  
昭和五十六年・政経学部卒  
一般社団法人共同通信社  
常務理事  
神奈川県川崎市在住



的場 稔  
昭和五十八年・政経学部卒  
シンジエンタジャパン(株)  
代表取締役社長  
東京都港区在住



疋田 邦雄  
昭和五十八年・政経学部卒  
(株)日立国際電気  
常務執行役員 経営管理本部長  
神奈川県横浜市在住

◆明大ニュース

●一四〇周年記念事業コンセプトが決定

明治大学創立一四〇周年記念事業実行委員会(委員長 柳谷孝理事長)はこのほど、記念事業の実施に向けたコンセプトを決定した。これは、学長を中心に検討が進められてきた本学の教学長期ビジョン「グランドデザイン二〇三〇」のコンセプトおよび本学が果たすべき役割と同一の内容となっており、五月二十一日に開催された記念事業実行委員会にて承認されたもの。

コンセプト決定を受けて、一四〇周年記念事業実行委員会のもとに設置された四つの分科会において、コンセプトに基づいた記念事業の検討が具体的に進められていく予定である。

★明治大学創立一四〇周年

記念事業コンセプト

前へ「個」を磨き、ともに持続可能な

社会を創る――

二十一世紀に入り、グローバル化が急速に進展した一方で、多様な価値観のぶつかり合

いによる国家・民族間の相克や社会的・経済的格差の顕在化など、様々な問題が生まれ、世界は混迷を深めつつあるように見えます。日本では少子高齢化が進行することにより、新たな価値観に基づく社会システムの構築が模索されています。こうした現代社会が抱える諸問題に真摯に向き合い、グローバル・パートナーシップを醸成して問題解決への取り組みを重ねることによって、ともに持続可能な社会を築いていくことが、いま求められています。

そこで重要になるのは、一人ひとりが人類の英知に学びながらそれぞれ個性を育み、多様な個性を尊重しつつ、社会のあらゆる場面で協同することを日常化することです。

明治大学は、二〇三二年に創立一五〇周年を迎えます。これまで、建学の精神である「権利自由、独立自治」を体現した多彩な人材を輩出してきました。これからも、多様な「個」を磨き、自ら切り拓く「前へ」の精神を堅持し、社会のあらゆる場面で協同を進め、時代を革新していく人材を育成します。これら人材の育成に必要な教育の基盤は研究、すなわち知の創造にあります。各専門分野を牽引する独創的研究を推進するとともに、学際的・国際的連携によって知の厚みを蓄え、新たな課題に挑戦します。

建学の精神を体現した人材の育成と知の創

造を通して共創的未来へと前進します。さあ、ともに前へ！

●硬式野球部

「全日本大学選手権」で三十八年ぶり優勝  
全国各地のリーグ戦で優勝した二十七校がトーナメント方式で対戦する「第六十八回全日本大学野球選手権大会」で、明大は二回戦・福井工業大に9-2、三回戦・東洋大に3-0、準決勝・東農大北海道に5-1で勝利し、決勝に進出。

六月十七日、明治神宮球場で迎えた決勝・佛教大戦のマウンドは森下暢仁主将（政治経済学部4年）が登板。三回に相手のエラーなどで3点を先制。その後も喜多真吾副主将（法学部4年）の走者一掃のタイムリーで追加点を挙げ、6-1で見事勝利。日本一の座に輝いた。

試合後のインタビュで善波達也監督は、「森下中心に崩れなかったことが、勝ちにつながった」と選手を称えた。森下主将は、「このメンバーと野球をやってこれられてよかった」と笑顔を見せた。

●自動運転社会総合研究所

「自動運転とサイバーリスク」

―香川大、群馬大と三大学合同

「小豆島プロジェクト」の成果発表―

明治大学自動運転社会総合研究所（所長＝中山幸二専門職大学院法務研究科教授）は、六月五日、駿河台キャンパス・グローバルホールにて、香川大学、群馬大学と共催の公開シンポジウム「自動運転とサイバーリスク」を開催した。

シンポジウムは土屋恵一郎学長のビデオメッセージによるあいさつで開会。土屋学長は「自動運転は日本の未来を切り拓くプロジェクト。三大学の研究成果が政府や企業にも活用され、官民学の協働で実現されるよう、さらに取り組んでいきたい」と意気込みを語った。

「小豆島プロジェクトの成果報告」と題した第一部では、二〇一九年三月十八日から二十日にかけて香川県の小豆島で実施された三大学合同の自動運転技術に関する公道実験の報告が行われた。香川大学の肥塚肇雄教授による趣旨説明に始まり、群馬大学の小木津武樹准教授（次世代モビリティ社会実装研究センター副センター長）による、実験や地域住民による自動運転車の試乗体験会についての解説などがあった。試乗体験で使用された車両は、コースがあらかじめプログラムされ、時速二十キロ以下で走行。スタッフが同乗し、緊急回避などは手動に切り替えて行える形で実施され、二百二十四人が参加した。

また、最終日には県道二五三号線の一部区

間の片側車線を使用して、サイバー攻撃による自動運転車の操作不能状態を想定した模型との衝突実験が行われ、その貴重な実験結果について、第二部「研究実験『自動運転の口グデータとサイバーリスク』の事例研究」で映像を交えて解説がなされた。

さらに、第二部では、(独)自動車技術総合機構・交通安全環境研究所自動車安全研究部長の河合英直氏による「自動運転のサイバーセキュリティをめぐる国際基準の議論状況」、自動運転社会総合研究所の安部博枝研究員による「リアルタイム・ログ・データの活用とAI学習」など、全部で七つの報告が行われた。サイバー攻撃による事故発生時の責任の所在や法整備など、自動運転を巡る課題について、幅広い観点から議論が深められたシンポジウムとなった。

シンポジウムには会場の座席数を大きく超える二百名以上が来場し、別室への同時中継が行われるほどの盛況となった。誤操作による交通事故などが連日報道される中、自動運転への関心と期待の高まりがうかがえた。

なお、本学ホームページでは、シンポジウムの様子を撮影した動画を公開している。

### ●司法試験(短答式試験)

#### 明大から110人が合格―全国六位

法務省は六月六日、二〇一九年司法試験の

うち短答式試験(憲法・民法・刑法、五月十九日実施)の結果を発表した。明治大学専門職大学院法務研究科(法科大学院)の合格者数は110人で、法科大学院別では全国六位だった(合格率は六七・九%)。上位十校は下記参照(予備試験からの合格者は除く)。

総受験者数4466人のうち、合格に必要な成績を得た者は3287人。合格率は七三・六%、合格者の平均年齢は三十一・六歳だった。論文式試験(五月十五、十六、十八日実施)の成績も加えた最終合格者の発表は、九月十日に行われる。

司法試験の受験資格は、法科大学院の課程修了、または司法試験予備試験の合格により得られる。受験期間は、受験資格取得日後の最初の四月一日から五年間。

#### ☆二〇一九年司法試験(短答式試験)合格者数

##### 法科大学院上位10校

- ①中央大(291人)、②慶応義塾大(246人)、③早稲田大(203人)、④東京大(197人)、⑤京都大(177人)、⑥明治大(110人)、⑦神戸大(99人)、⑧一橋大(95人)、⑨大阪大(86人)、⑩同志社大(73人)

### ●OB首長

▽北海道千歳市長 山口幸太郎氏(無所属)

- ⑤、一九六七年政経学部卒・77歳)

▽北海道中頓別町長 小林生吉氏(無所属)  
②、一九八四年政経学部卒・58歳)

▽北海道浦幌町長 水沢一広氏(無所属④、  
一九七二年商学部卒・70歳)

▽埼玉県行田市市長 石井直彦氏(無所属①、  
二〇〇八年ガバナンス研究科修了、75歳)

▽東京都大田区長 松原忠義氏(無所属④、  
二〇〇九年ガバナンス研究科修了、76歳)

▽東京都北区長 花川与惣太氏(無所属⑤、  
一九六一年政治経済学研究科修了・84歳)

▽神奈川県平塚市長 落合克宏氏(無所属  
③、一九八一年法学部卒・61歳)

▽大阪府寝屋川市長 広瀬慶輔氏(無所属①、  
一九九六年政治経済学研究科修了・48歳)

▽北海道美唄市長 板東知文氏(無所属①、  
一九七七年政経学部卒・66歳)

### ●二〇一八年度私立大学等経常費補助金

#### 明大への交付額は約三十七億円、全国九位

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇一八年度の私立大学等(大学・短期大学・高等専門学校)に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表した。本学への交付額は37億3057万2000円となり、順位は全国九位だった(前年度十五位、医歯学部のない大学では、早稲田大、立命館大学に次いで三位)。

私立大学等経常費補助金は、①私立大学等

の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の経営の健全性向上、の三点に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として全額、学校法人に対して設置学校の経常的経費について補助するものである。

この補助金には、各学校における教職員数や学生数等に所定の単価を乗じて得た基準額を教育研究条件の状況に応じて傾斜配分する「一般補助」と、教育・研究に関する特色ある取り組みに応じて配分する「特別補助」がある。

二〇一八年度の私立大学等経常費補助金の交付状況を見ると、交付学校数は八百六十五校、交付総額は3166億1813万円であり、内訳では一般補助2713億9651万9000円、特別補助452億2161万1000円となっている。

このうち私立大学には、2960億3143万5000円が交付されている。交付額を大学一校当たりで換算すると5億1844万4000円で、学生一人当たり15万3000円となる。

二〇一八年度は、教育の質的転換、産業界との連携、他大学等との広域・分野連携、グローバル化、プラットフォーム形成といった改革に全学的・組織的に取り組む学校に対す

る支援を強化するため、「私立大学等改革総合支援事業」として、三百四十六校に対し増額配分（一般補助および特別補助の内数）が行われた。

本学への交付額の37億3057万2000円のうち、一般補助は29億9201万1000円、特別補助は7億3856万1000円であった。

国から経常費補助金として財政支援を受けている大学は、社会の要請にこたえるべく、教育・研究体制を構築していかなければならぬ。本学においても、グローバル社会で活躍できる人材の育成、研究成果の発信等による地域・社会との連携を中心に、緩みなく改革に取り組み、さらなる補助金の獲得を目指し積極的な展開を図っていく。

#### ●向殿政男名誉教授(校友会長)が

##### 「国土交通大臣表彰」を受賞

安全学のエキスパートである向殿政男名誉教授(校友会長)が、都市計画法・建築基準法制定一〇〇周年記念「国土交通大臣表彰」を受賞した。本表彰は、都市計画および建築行政の推進等に功績のあった個人や団体を表彰するもの。

向殿名誉教授は、経済産業省消費経済審議会製品安全部会長、製品安全対策優良企業表彰審査委員長などを歴任し、今回は国土交通

省社会資本整備審議会昇降機等事故調査会長としての功績が認められての受賞となった。省庁からの受賞は経済産業大臣表彰、厚生労働大臣表彰、内閣総理大臣表彰に続いて四回目の受賞となった。

#### ●リバティアカデミー「北野家の訓え」

##### 北野大氏によるオープン講座

理工学部教授として教鞭をふるっていた北野大氏による講座「北野家の訓え」が四月二〇日、駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催された。本講座は、明治大学の生涯学習機関・リバティアカデミーのオープン講座で、小田急電鉄との三回目の連携講座として実施されたもの。講座の冒頭、北野氏は学生時代から現在まで続く自身と本学との関係を語り、明治大学への熱い思いを強調した。

講座では、まず「家庭」を切り口に「自慢高慢馬鹿がする」「一杯の酒に城が傾く」等、両親や自らの経験をもとにした「訓え」を七つ披露し、後半では「地域」をキーワードに、自らの出生の地である下町の特徴についてユーモアたっぷりに紹介した。特に、「みんなのものは自分のもの」という考え方については、聴講者の多くがうなずき、共感をしている様子であった。

時折、実弟であり映画監督・タレントである北野武氏とのエピソードや、テレビ業界の

裏話、自身が最近テレビに出演しなくなった理由等についても触れ、まさに同氏でしか話すことのできない話題が満載の九十分間となった。満席となった会場は、終始笑顔に溢れ、温かい雰囲気に含まれていた。

### ● 明治大学発祥の地記念碑が再設置

東京・有楽町の数寄屋橋交差点付近にある「明治大学発祥の地記念碑」が、このたび再設置された。これは、本学の建学の精神を顕彰し、教育の近代化の道標を明らかにするため一九九五年十一月に大学発祥の地である有楽町のニュートーキョービル前に建てられたが、周辺道路の美化化工事に伴って一時的に移設され、五月に再設置が完了したものである。

さらに、記念碑の横に千代田区文化財・史跡を紹介する説明板が新たに設けられた。外国人観光客なども多く行き交う場所であることから、説明板には、記念碑碑文を補足する内容が和英併記され、千代田区文化財のホームページにアクセスできる二次元バーコードなども印字されている。

所在地…東京都千代田区有楽町二二二  
アクセス…有楽町駅より徒歩三分、銀座駅より徒歩一分(いずれも最寄口より)

### ● 「兒玉圭司文化・芸術振興奨励金」

総合数理学部橋本研究室の学生が受賞

二〇一八年度「兒玉圭司文化・芸術振興奨励金」の奨励学生が決定し、六月十九日、駿河台キャンパス・学生会館で目録贈呈式が催された。この賞は文化・芸術活動に優れた学生を称えるため、本学校友の兒玉圭司氏による寄付金を原資として新設され、総合数理学部・橋本直研究室所属の学生チーム「にんにんラボ」に贈られた。「にんにんラボ」は、二〇一八年十一月十四〜十六日に開催された「第二十六回国際学生対抗バーチャリアリテイコンテスト」における総合優勝と観客大賞を受賞。平野祐也さん、椎名星歩さん、西川尚志さん、竹永正輝さん、丸山寛人さん、武田雄太さん、渡邊真輝さん、浅野日登美さん、千葉麻由さん(いずれも総合数理学部4年)の九人が奨励学生となった。

贈呈式では、兒玉氏、土屋学長からそれぞれ激励の言葉が贈られた後、コンテスト優勝作品「ブレインツリー」が披露された。視覚や触覚をコントロールして「頭に植物が生える感覚」を土屋学長らが実際に体験した。

奨励学生を代表してあいさつに立った平野さんは、兒玉氏への謝意と共に「九人グループでは予定や役割分担の調整がつかず苦労が多かったが、最後まであきらめずに続けることができた」と振り返り、「今後関連学会での発表に向けて、システムのアップデートや論文制作に励みたい」と語った。

### ● 「畠中君代トップアスリート支援基金」

奨励学生決定

世界レベルでの活躍に期待

「畠中君代トップアスリート支援基金」の二〇一九年度奨励学生がこのほど決定し、六月十九日、駿河台キャンパス・学生会館で目録贈呈式が催された。

この基金は、体育会硬式庭球部OG・畠中君代氏(一九六七年文学部卒・連合駿台副会長)の厚志により創設されたもので、二〇二〇年の東京五輪をはじめ国際大会での活躍を目指す明大トップアスリートの支援が目的。今回は、射撃部の平田しおり選手(政経学部2年)、ラグビー部の石田吉平選手(文学部1年)、スケート部の樋口新葉選手(商学部1年)が採用となった。

あいさつに立った畠中氏は、「自分のため、そして明治大学のために頑張る四年間を過ごして」と三選手を激励。続いて土屋学長より奨励学生一人ひとりに目録が手渡された。

奨励学生の三人は、「これまで射撃競技に打ち込めたのも応援してくれた皆さんのおかげ」(平田選手)、「東京五輪出場を目標に頑張りたい」(石田選手)、「二〇二二年北京五輪に出場し、世界でメダルを獲得したい」(樋口選手)と、それぞれ採用の喜びと決意を述べた。

## ●世界に広がる協定校

## 五十四カ国・地域三百四十二大学と協定

明治大学は、新たに以下の海外大学と大学間協定を締結した。協定校はこれで五十四の国と地域、三百四十二大学（部局間協定を含む）となった。（三月三十一日時点）

☆ソノマ州立大学（米国・公立）

創立…一九六一年

所在地…カリフォルニア州

☆ネバダ大学リノ校（米国・公立）

創立…一八七四年

所在地…ネバダ州

☆エンデラン大学（フィリピン・私立）

創立…二〇〇五年

所在地…マニラ

☆カリフォルニア州立大学チャンネル・アイ

ランズ校（米国・公立）

創立…二〇〇二年

所在地…カリフォルニア州

☆ブカレスト経済研究大学（ルーマニア・国立）

創立…一九一三年

所在地…ブカレスト

☆使徒聖パウロ情報科学技術大学（マケドニア・公立）

創立…二〇〇九年

所在地…オフリド

☆中国社会科学院大学・大学院（中国・国立）

創立…一九七八年

所在地…北京市

☆アーカンソー州立大学（米国・公立）

創立…一九〇九年

所在地…アーカンソー州

☆カリフォルニア州立大学ドミンゲス・ヒルズ校（米国・公立）

創立…一九六〇年

所在地…カリフォルニア州

☆コロロンボ大学（スリランカ・国立）

創立…一九二一年

所在地…コロロンボ

☆テネシー工科大学（米国・公立）

創立…一九一五年

所在地…テネシー州

☆イスラエル工科大学（イスラエル・国立）

創立…一九一二年

所在地…ハイファ

☆グアダハラハラ大学（メキシコ・公立）

創立…一九二五年

所在地…ハリスコ州

☆レユニオン大学（フランス・公立）

創立…一九八二年

所在地…レユニオン島

## ●経営学部 小関ゼミ・菊地ゼミ

## 鳥取大学地域学部と研究交流

## 経営学部小関隆志ゼミナールと菊地端夫ゼミ

ミナールの学生が、六月十四日から十五日にかけて、鳥取大学地域学部において、本学校友でもある佐藤匡准教授（専門…憲法学・法律学）研究室所属の学生八人と研究交流を実施した。経営学部と鳥取大学地域学部は、ゼミレベルでの交流や、科目等履修生として鳥取大学から「国内留学」の受け入れを行ってきており、今回は鳥取県の連携促進事業の補助金を活用し、六人の経営学部生が鳥取大学を訪問した。

本学と鳥取大学、鳥取県は二〇〇九年三月の「鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定」締結以降、研究・教育の両面でさまざまな連携交流を実施してきており、経営学部においても鳥取大学地域学部との学生交流の強化を目指した取り組みを行ってきている。

今回の訪問では各ゼミの学生からの研究内容の発表に続き、両大学の学生が交わり合っのワールドカフェ（ファシリテーションを目的とした参加者同士の対話）を行い、お互いの気づきの共有や相互理解に努めた。その後、鳥取駅前へ移動して両大学の教員、学生参加による懇親会が開かれ、学生たちは時間を忘れて親睦を深めた。翌日は本学創立者の岸本辰雄先生記念像をはじめ鳥取市内のフィールド調査も実施した。

教員間の協議では今後も経営学部、鳥取大学地域学部での学生同士の交流を積み重ねて

いくことを確認した。

経営学部では学生の主体性を高め、他者と学ぶコミュニケーションの拡大と学生のモビリティ向上を目的に、今後も鳥取大学地域学部をはじめ、他大学との学生を中心とした交流を積極的に進めていく予定である。

### ●農学部

#### オリジナル芋焼酎「黒川農場」が完成

黒川農場は、農学部の学生が栽培・収穫したサツマイモを使用したオリジナル焼酎「黒川農場」を製造した。これは、正課授業「農場実習」の中で収穫された紅あずま黄金千貫という芋焼酎の原料に適したサツマイモを使用し、校友で(株)尾込商店(鹿児島県南九州市)の杜氏・尾込宜希氏(一九九二年経営学部卒)によって醸造されたもので、芳醇な香りとまろやかな甘さが特徴の本格芋焼酎。農学部はこの試みを通して、農作物の栽培、加工、流通、マーケティングなどのノウハウを蓄積し、今後の教育研究や社会連携、農場運営に活かしたいとしている。

なお、当面の間販売は行わず、「農学部学術教育振興資金」への寄付に対する返礼品として活用されている。農学部への寄付について詳しくは本学ホームページから。

(<https://www.meiji.ac.jp/agri/giving/>)

### ●寄付講座

#### 「大岡信の美のまなざし」

リバティアカデミーは六月二十二日、詩人・大岡信氏の功績を紹介するZ会寄付講座「大岡信の美のまなざし」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。

大岡氏は、詩作とともに美術批評の分野で活躍し、美術関係者との交流も深かった。また、明治大学で二十年以上にわたり教鞭を執り、二〇一七年四月に八十六年の生涯を閉じた後、同氏が所蔵する四百点あまりの美術品は本学に寄贈された。

本講座では、大岡氏のコレクション展を手掛けたこともある三鷹市美術ギャラリー副館長の朝倉祐一朗氏が登壇。学芸員である朝倉氏が大岡氏へ美術品の保管環境について助言すると、大岡氏は「元は真っ白なのだから、真っ白に戻ればいい」と笑顔で返したという。この言葉の真意について、「作品が形を失うことに執着せず、むしろそれを受け入れていく。目の前にある作品と対峙することの大切さを伝えたかったのではないか」と朝倉氏は分析した。

さらに、大岡氏に親しい美術家や美術作品を紹介。菅井汲氏の絵と大岡氏の詩の共作について朝倉氏は「成功と失敗は紙一重。作品からは『ある種の覚悟』が感じられる」と語り、同氏が紡ぐ言葉から浮かび上がる「享

受」と「覚悟」について触れ、講座を締めくくった。

### ●駿台体育会

#### 二〇一八年度団体優勝四部を表彰

二〇一八年度に活躍した体育会ラグビー部、スケート部、拳法部、ボードセーリング部の四部がこのほど、駿台体育会から団体優勝表彰を受けた。

六月十九日に開催された駿台体育会総会では田部井茂副会長が各部の部長・監督に記念の楯を贈呈。各部を代表して謝辞に立ったラグビー部の大六野耕作部長(副学長、政治経済学部教授)は、駿台体育会や大学に対し感謝の念を示した上で、「研鑽を積んでこれからも勝利を重ねていきたい」とさらなる飛躍を誓った。

各部の受賞は下記のとおり。

◆ラグビー部：第五十五回全国大学ラグビーフットボール選手権大会・優勝

◆スケート部：第九十一回日本学生氷上競技選手権大会・総合優勝

◆拳法部：第六十三回全日本学生拳法選手権大会・優勝

◆ボードセーリング部：二〇一八年度全日本学生ボードセーリング選手権大学対抗戦・優勝

## ◆駿台トピックス

## ●第十五回オープンゴルフコンペを開催

春のオープンゴルフコンペが五月三十日、東京よみうりカントリークラブで十八名の参加のもと開催されました。好天に恵まれ、絶好のゴルフ日和となりました。

新ペリア方式による成績結果は、優勝はグロスでも二位だった木村健一会員（昭和六十三年・政経卒）、準優勝は常連の高澤徹会員（昭和四十四年・経営卒）、第三位はオープンゴルフ皆勤の内川雄一郎会員（昭和五十四年・経営卒）で、陶芸家の武内裕会員作による優勝カップと陶器が副賞として贈られました。ベストグロス賞は40・44で回った山口大介会員（平成十二年・政経卒）でした。

十一月二十八日には、十六回目になるゴルフコンペが、東京ゴルフ倶楽部（埼玉県狭山市）で開催されます。

## ◆五月総会出席者

青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、浅井宏、



安達明正、阿部倫明、入会前同伴、有賀隆治、飯田和人、石川かおり、石川均、伊東正博、井上欽也、猪田忠、伊原敏雄、植木榮、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、内川雄一郎、榎本知佐、大石哲也、大野正美、大橋重男、大原幸男、大前実之、奥村勝広、鬼塚和也、加賀美猛、勝保正義、栢森靖、菊部彰夫、河村博、神林光、木村健一、草間謙一郎、小島清治、五味道雄、小山修、小山有彦、根田哲雄、齋藤柳光、三枝富博、櫻井保彦、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、佐野徑、澤野太嘉嗣、城川博孝、甚野捷、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関孝夫、関根均、瀬戸正道、相臺志浩、高澤徹、武内裕、武田宣夫、田所俊弥、田中義之、田村駿、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏洋、中里猛志、長瀬幸泰、中根武、長堀守弘、中村康一、中村豊、並木洋一、二井康夫、西山武夫、二宮充子、根岸伸明、萩原裕次、長谷川進一、長谷川俊也、島中君代、幡谷公朗、塙英幸、羽生健一郎、馬場範夫、原田榮、日高憲三、深代尚夫、福田和彦、福見勉、前川一郎、楨野泰、松崎優子、水澤元博、宮下隆、向井眞一、向殿政男、村岡健、村山友彦、室井恵明、森一朗、柳谷孝、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田幸夫、山本紳、弓野理恵、渡邊一治

## 【編集後記】

今年のメジャーリーグは、イチロー選手の引退から始まり、大谷選手の連日の活躍、初のロンドン遠征など話題に事欠きません。一方、日本のプロ野球に目を転じると、三度目の原監督体制となり、数年前に強いジャイアンツが復活し、ペナントレースは盛り上がりを見せています。

その中で忘れてはならないのは、我らが母校野球部の活躍です。幕開けは春季六大学リーグ戦で、十勝一敗一分けと全チームに勝ち越した完全優勝を二〇一六年春以来、五季ぶりに達成しました。

勢いはそれだけにとどまらず、六月の全日本大学野球選手権では、初戦の福井工業大学戦を9対2、準々決勝の東洋大戦は3対0、準決勝の東農大北海道戦は5対1と、順当に勝利を積み重ねた。六月七日の決勝は、エース森下のピッチングが冴えわたり、九回完投10奪三振と佛教大打線を1失点に抑え6対1と、見事勝利をもぎ取った。

全日本制覇は三十八年ぶり六回目となり、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞には、十八回登板、二勝、防御率〇・五〇で森下投手が、また、首位打者賞には、十三打数七安打、打率五割三分八厘で北本選手が、それぞれ選出された。

三十八年前の一九八一（昭和五十六）年は、下名は中学生の青春真っただ中で、毎日、軟式ボールを追いかけていた。甲子園や六大学野球とはまったく縁がなかったが、今回の母校の活躍には勇気を与えてもらった。

野球部の歴史と我々の半生を重ね合わせ、「人生、どんなトラブルや苦難があっても、いつかはチャンスがやってくる！」という言葉を胸に、新しい令和の時代を生き抜きたいものである。

（宮本浩二）